九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

宇木汲田貝塚 : 1966・1984年発掘調査の再整理調査報告書

宮本, 一夫
九州大学大学院人文科学研究院 : 教授

松本, 圭太
九州大学大学院人文科学研究院 : 学術研究員

高宮, 広土
鹿児島大学総合科学域総合研究学系 : 教授

上條, 信彦
弘前大学人文社会科学部 : 教授

他

https://hdl.handle.net/2324/4372000

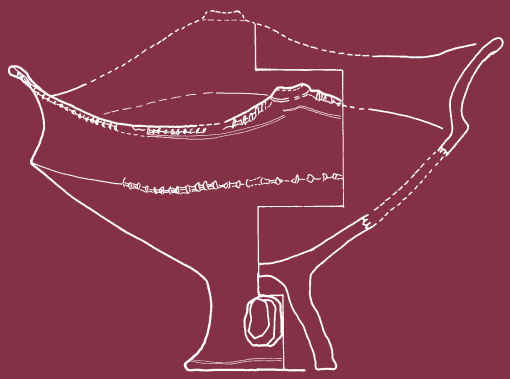
出版情報：2021-03-25. 九州大学大学院人文科学研究院考古学研究室
バージョン：
権利関係：

宇木汲田貝塚

－1966・1984年発掘調査の再整理調査報告書－

Ukikunden Shell Midden Site, Karatsu City, Saga Prefecture, Japan: Research Report of 1966 and 1984 Excavations at Ukikunden Site

宮本一夫編　edited by MIYAMOTO Kazuo



2021. 3

九州大学大学院人文科学研究院考古学研究室

宇木汲田貝塚

－1966・1984年発掘調査の再整理調査報告書－

Ukikunden Shell Midden Site, Karatsu City, Saga Prefecture, Japan: Research Report of 1966 and 1984 Excavations at Ukikunden Site

宮本一夫編　edited by MIYAMOTO Kazuo

2021. 3
九州大学大学院人文科学研究院考古学研究室

巻首図版

1　1984年発掘調査区遠景（西北から）

2　1984年調査Ｇ９区北壁層位

序

宇木汲田遺跡は、佐賀県唐津市という壱岐・対馬を経て朝鮮半島南部との交流において最も近い地点に位置する。日本の水稲農耕は、朝鮮半島南部の無文土器文化との接触の中に始まったことが明らかとなっており、それを以て弥生時代の始まりとされている。朝鮮半島無文土器文化との接触を示す遺跡としては、無文土器文化の墓制である支石墓が知られている。唐津市にはこの支石墓が多く残されている。これら支石墓のうち、九州大学考古学研究室では、1966年と1995年に森田支石墓を、1999・2000年に大友支石墓を発掘調査してきた。特に大友支石墓の第５・６次調査では、形質人類学者と共同で古人骨を用いて、縄文から弥生の移行期における人の交流について明らかにしようとした。その結果、在来の縄文人たちが大陸系の支石墓を受容し、縄文以来の在来の小児棺と組み合わせた墓制を持つという実態が明らかとなった。

一方、宇木汲田貝塚の発掘調査も九州大学考古学研究室で実施してきている。1965年の試掘調査を経て、1966年にはフランス極東学院との共同発掘調査を実施した。これにより、夜臼単純層から炭化米を発見することができ、この時期の水稲農耕の始まりが明らかとなった。さらに故横山浩一教授を代表とする科学研究費によって、1984年には夜臼単純層の貝塚の実態を明らかにすべく、綿密な貝層ブロック単位での発掘調査が実施された。これにより、板付式成立以前の刻目突帯文土器時期である夜臼式単純層の存在が明確となった。その際、炭化米を含んだ大量の土壌サンプルが採集された。九州大学考古学研究室では、箱崎キャンパスから伊都キャンパスへの移転に伴い、これら土壌サンプルを整理することとした。すなわち、それらサンプルすべてをフローテーションすることによって、自然遺物の採集に努めた。その際、大量の炭化米を発見するに及んだのである。2017年、その炭化米４点を放射性炭素年代測定したところ、紀元前９～８世紀の年代値を得ることができた。これが弥生時代開始期の実年代に相当する最も確実な証拠となったのである。しかし、それに伴う遺物や自然遺物に関しては、概報のみの公開であり、大半の資料が未発表のままであった。そこで、それら資料を再整理し、実年代に関わる土器型式の確定とともに、縄文から弥生の移行期の生業を復元する必要があると考えた。貝塚資料は、生業復元のための最も充実した考古資料と言えるからである。

2019年度に始まった科学研究費補助金・基盤研究（S）「東アジアにおける農耕の拡散・受容と牧畜社会生成過程の総合的研究」（代表　宮本一夫）では、モンゴル国での青銅器時代墓地の発掘や、中国山東省楊家圏遺跡の水田遺跡の発掘調査により、東アジアにおける農耕の拡散過程と牧畜社会の形成過程を明らかにしようとしている。しかし、2020年に発症した新型コロナ・ウイルス感染症拡大に伴い、海外調査が実施できない中、これまでの研究成果をまとめることを当座の研究目標とした。かかる状況において、本基盤研究（S）の研究目的の一つである農耕の拡散と受容の過程を、日本列島において明らかにすることが重要な課題となった。その意味において、宇木汲田貝塚の再整理は最も重要な研究対象である。再整理にあたっては、本基盤研究（S）の分担研究者以外に、鹿児島大学の高宮広土さん、奈良文化財研究所の松崎哲也さん、総合研究大学院大学の菊地大樹さんにも参加願い、分析とともにその結果をまとめて寄稿していただいた。ここに記して感謝したい。

宇木汲田貝塚の再整理を通じ、日本水稲農耕文化の始まりである夜臼Ⅰ式が紀元前９～８世紀であることが、改めて明らかとなった。それに伴う考古資料をすべて公開することにより、今後、関連分野の研究者に広く本資料が使われるとともに、この分野への議論がさらに高まることを願っている。

2021年１月５日

九州大学大学院人文科学研究院教授
宮本一夫

例　　言

1　本書は、佐賀県唐津市宇木字汲田に所在する宇木汲田貝塚の再整理調査報告書である。

2　本書で再整理の対象とした調査は、1965～1966年のフランス外務省文化技術局と九州大学による日仏合同調査および、1984～1985年度文部省科学研究補助金・総合研究Ａ「北部九州における弥生文化の成立」（代表　横山浩一）によって、九州大学文学部考古学研究室が主体となり行った調査である。

3　本書の刊行は、令和元年～５年度科学研究費補助金・基盤研究（S）「東アジアにおける農耕の拡散・受容と牧畜社会生成過程の総合的研究」（代表　宮本一夫）によるものである。

4　本書における方位は磁北を示し、レベル高は海抜を表す。

5　遺構の略号は奈良文化財研究所の方式に従って、住居址：SB、土坑：SK のように表示し、通し番号を１から付した。

6　遺物には、全てを一括して通し番号を1から付した。この遺物番号は、本文、実測図、写真を通じて表示を統一した。

7　原則として、出土土器の実測図は縮尺１／４、出土石器の実測図は縮尺１／３または２／３に統一した。遺構の実測図や他の縮尺のものはそれぞれに縮尺を明記した。

8　注は各章ごとにまとめて、章末に記載した。

9　遺物の実測と製図は宮本一夫、松本圭太（九州大学大学院人文科学研究院）、福永将大（九州大学埋蔵文化財調査室）、富宝財、戴玥、楊萌、譚永超、李寧、小澤利満、三浦萌、藪遥菜、張宇、内田千種（九州大学大学院人文科学府）、山下理呂、中野真澄、松尾樹志郎、足達悠紀（九州大学大学院地球社会統合科学府）、岩田英信、新谷広太郎、田中利沙、長谷川桃子、藤尾徳馬、下釜菜々子、宗田結衣、土居隼人、柱七彩、山地優輝、吉原萌、中島渉太郎、亀川微香、大河巴奏、森田雄士、坂上義実、坂ノ上奈央、山田樹、永島さくら、田中佑希乃、唐尚輝、諸岡初音、出見優人（九州大学文学部）が行った。

10　人工遺物の写真撮影は宮本一夫が担当した。土器破片・石器・貝類の写真は約１／２に統一した。

11　巻首図版は九州大学総合研究博物館収蔵写真、図版１・２は九州大学比較社会文化研究院基層構造講座収蔵の写真である。

12　本文は、宮本一夫、松本圭太（九州大学大学院人文科学研究院）、高宮広土（鹿児島大学総合科学域総合研究学系）、上條信彦（弘前大学人文社会科学部）、松崎哲也（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所）、菊地大樹（総合研究大学院大学先導科学研究科）、松尾樹志郎（九州大学大学院地球社会統合科学府）が分担執筆した。それぞれの執筆分担は目次と各章の初めに示した。

13　編集は宮本一夫が行った。

目　　次

序　宮本一夫

第１章　宇木汲田遺跡の位置と環境　松本圭太
１．自然環境…… 1
２．歴史的環境…… 3
３．宇木・半田川流域の遺跡…… 6
４．宇木汲田貝塚と周辺の遺跡…… 6
５．宇木汲田貝塚と水稲農耕…… 8

第２章　宇木汲田貝塚の再整理調査の経緯と目的　宮本一夫
１．宇木汲田貝塚の調査…… 13
２．貝塚土層のフローテーション分析…… 14
３．炭化米と土器付着炭化物の年代…… 14
４．再整理調査の目的…… 15

第３章　宇木汲田貝塚発掘調査のトレンチ位置と層位　松本圭太
１．松浦史談会による調査…… 17
２．日仏合同調査…… 17
３．1984年の九州大学による調査…… 19

第４章　宇木汲田貝塚出土土器　宮本一夫
１．はじめに…… 31
２．日仏合同調査（1966年調査）資料…… 32
３．1984年調査資料…… 36
４．その他…… 54
５．まとめ…… 61

第５章　宇木汲田貝塚出土石器　松尾樹志郎・宮本一夫
１．はじめに…… 68
２．出土石器…… 70
３．まとめ…… 78

第６章　宇木汲田貝塚出土石器の使用痕分析　上條信彦
１．使用痕研究の意義と目的…… 80
２．使用痕観察の資料とその方法…… 80
３．使用痕の観察結果…… 82
４．機能・用途の推定…… 87

第７章　宇木汲田貝塚出土の貝類　宮本一夫
１．はじめに…… 89
２．Xa・IXa 層の貝種 …… 89
３．まとめ…… 92

第８章　宇木汲田貝塚から出土した動物遺存体　松崎哲也・菊地大樹
１．はじめに…… 93
２．同定結果…… 93
３．骨角製品…… 96
４．宇木汲田貝塚における動物利用…… 96
５．まとめ…… 97

第９章　宇木汲田貝塚出土の植物遺体　高宮広土
１．調査の概要…… 98
２．バックグラウンド…… 98
３．検出された植物遺体…… 98
４．まとめ…… 106

第10章　宇木汲田貝塚出土米の計測分析　上條信彦
１．分析資料と方法について…… 109
２．宇木汲田貝塚出土米の粒形質…… 109
３．周辺の遺跡、および DNA 分析の結果との比較 …… 110

第11章　宇木汲田貝塚再整理調査の成果と課題　宮本一夫
１．はじめに…… 112
２．層位と土器型式…… 112
３．弥生時代開始期の生業復元…… 119
４．まとめ…… 120

図版

図　版　目　次

巻首図	1	1984年発掘調査区遠景（西北から）
	2	1984年調査Ｇ９区北壁層位
図版１	1	1984年調査のトレンチ（南東から）
	2	1984年発掘調査風景（南東から）
図版２	1	1984年調査Ｇ４～G10区北壁層位
	2	1984年調査Ｇ９区南壁層位
図版３		1984年調査出土土器（１）
図版４		1984年調査出土土器（２）
図版５		日仏合同調査出土土器（１）
図版６		日仏合同調査出土土器（２）
図版７	1	日仏合同調査出土土器（３）
	2	1984年調査 XI・X 層出土土器
図版８		1984年調査 X 層出土土器
図版９		1984年調査 IX 層出土土器（１）
図版10		1984年調査 IX 層出土土器（２）
図版11		1984年調査 IX 層出土土器（３）
図版12		1984年調査 IX 層出土土器（４）
図版13		1984年調査 VIII・VII 層出土土器
図版14		1984年調査 III 層出土土器（１）
図版15		1984年調査 III 層出土土器（２）
図版16		1984年調査 III 層出土土器（３）
図版17		1984年調査 II 層出土・層位不明土器
図版18	1	1984年調査出土土製品
	2	「展示資料」土器
図版19	1	宇木汲田貝塚出土石器（１）
	2	宇木汲田貝塚出土石器（２）
図版20	1	宇木汲田貝塚出土石器（３）
	2	1984年調査貝塚出土貝類

挿　図　目　次

図１　唐津市周辺の地形…… 1
図２　唐津市周辺における砂丘…… 2
図３　唐津平野における遺跡分布…… 3
図４　宇木汲田貝塚と周辺遺跡…… 5
図５　宇木汲田遺跡全体図および調査地点…… 7
図６　宇木汲田甕棺墓地遺構図（黒塗りがⅠ期相当）…… 8
図７　森田支石墓群　地形実測図…… 9
図８　瀬戸口支石墓群　地形実測図…… 10
図９　宇木汲田貝塚出土炭化米の較正年代…… 14
図10　測定したイネ科雑穀（ine）と雑穀（awa と kibi）の較正年代（上段）と、イネ（宮本2018）の較正年代（下段）の比較…… 15
図11　1966・1984年調査区位置（斜線部分）…… 17
図12　1938年・1966年調査区…… 18
図13　日仏合同調査における層位模式図…… 18
図14　1966年調査区と貝層範囲（1984年）の対比…… 19
図15　1984年調査区（VII 層までの状況）…… 19
図16　1984年調査区における土層断面の位置（本章記載分）…… 20
図17　1984年調査土層断面図①～⑤（1/50）…… 20・21
図18　1984年調査土層断面図⑥～⑧（1/50）…… 22・23
図19　IXa-3層土壌試料採取区…… 24
図20　IXa-4層土壌試料採取区…… 24
図21　Xa-2・8層土壌試料採取区…… 25
図22　Xa-9層土壌試料採取区…… 25
図23　Xa-10層土壌試料採取区…… 27
図24　日仏合同調査出土土器（１）…… 31
図25　日仏合同調査出土土器（２）…… 32
図26　日仏合同調査出土土器（３）…… 33
図27　日仏合同調査出土土器（４）…… 34
図28　日仏合同調査出土土器（５）…… 35
図29　1984年調査 XI 層出土土器…… 35
図30　1984年調査 X 層出土土器（１）…… 36
図31　1984年調査 X 層出土土器（２）…… 37
図32　1984年調査 IX 層出土土器（１）…… 38
図33　1984年調査 IX 層出土土器（２）…… 39
図34　1984年調査 IX 層出土土器（３）…… 40
図35　1984年調査 IX 層出土土器（４）…… 41
図36　1984年調査 IX 層出土土器（５）…… 42

図37　1984年調査 IX 層出土土器（６）…… 43
図38　1984年調査 IX 層出土土器（７）…… 44
図39　1984年調査 IX 層出土土器（８）…… 44
図40　1984年調査 VIII 層出土土器 …… 45
図41　1984年調査 VII 層出土土器…… 46
図42　1984年調査 IV 層出土土器 …… 47
図43　1984年調査 III 層出土土器（１）…… 48
図44　1984年調査 III 層出土土器（２）…… 49
図45　1984年調査 III 層出土土器（３）…… 50
図46　1984年調査 III 層出土土器（４）…… 51
図47　1984年調査 III 層出土土器（５）…… 52
図48　1984年調査 II 層出土土器 …… 53
図49　1984年調査出土層位不明土器（１）…… 53
図50　1984年調査出土層位不明土器（２）…… 54
図51　1984年調査出土土製品…… 61
図52　「展示資料」土器 …… 62
図53　宇木汲田貝塚の層位的土器型式…… 64
図54　宇木汲田貝塚出土石器（１）…… 68
図55　宇木汲田貝塚出土石器（２）…… 69
図56　宇木汲田貝塚出土石器（３）…… 70
図57　宇木汲田貝塚出土石器（４）…… 71
図58　宇木汲田貝塚出土石器（５）…… 72
図59　宇木汲田貝塚出土石器（６）…… 73
図60　宇木汲田貝塚出土石器（７）…… 74
図61　宇木汲田貝塚出土石器（８）…… 75
図62　宇木汲田貝塚出土石器の使用痕１…… 81
図63　宇木汲田貝塚出土石器の使用痕２…… 83
図64　宇木汲田貝塚出土石器の使用痕３…… 84
図65　宇木汲田貝塚出土石器の使用痕４…… 86
図66　宇木汲田貝塚1984年調査Ｇ７－９区南壁 …… 89
図67　宇木汲田貝塚 Xa 層土壌採集地点（梨地部分）…… 90
図68　宇木汲田貝塚 IXa 層土壌採集地点（梨地部分）…… 90
図69　動物遺存体の組成（n=182）…… 93
図70　器種不明骨製品…… 96
図71　宇木汲田貝塚出土の植物遺体（１）…… 102
図72　宇木汲田貝塚出土の植物遺体（２）…… 103
図73　長さと幅の分布…… 109
図74　長幅平均値の分布…… 111
図75　宇木汲田出土炭化米の較正年代…… 113
図76　宇木汲田遺跡の弥生移行期の土器編年…… 114・115

図77　宇木汲田貝塚出土弥生系石器・土製品…… 117
図78　宇木汲田貝塚出土縄文系石器・土製品…… 118

表　目　次

表１　炭化米の放射性炭素年代測定結果…… 13
表２　炭化米の放射性炭素年代測定結果…… 13
表３　推定される較正年代…… 15
表４　1966・1984年調査出土土器観察表…… 55～60
表５　1984年調査出土土製品観察表…… 61
表６「展示資料」土器観察表 …… 63
表７　宇木汲田貝塚の層位と出土土器型式の対応…… 65
表８　宇木汲田貝塚出土石器観察表…… 76
表９　宇木汲田貝塚出土貝類地区・層位別貝種組成表…… 91
表10　宇木汲田貝塚出土貝類層位別組成表…… 91
表11　宇木汲田貝塚出土動物遺存体種名表…… 94
表12　宇木汲田貝塚出土の植物遺体…… 99
表13　F-6VII 出土の植物遺体 …… 100・101
表14　イネのサイズ…… 105
表15　キビのサイズ…… 105
表16　アワのサイズ…… 105
表17　粒型・粒大の組み合わせ…… 110
表18　炭化米の放射性炭素年代測定結果…… 113
表19　炭化米の放射性炭素年代測定結果…… 113
表20　宇木汲田遺跡の層位別土器型式と西日本の土器編年との平行関係…… 116